

# 1 学校評価・自己評価 (A…達成 B…概ね達成 C…やや不十分 D…不十分)

## 「確かな学力」を育てる

評価指標・取組指標 <small>アンケート丸数字は項目番号</small>	達成状況・取組状況 <small>アンケート数値は「よくあてはまる」、「あてはまる」を合わせた割合(%)は前年比</small>	評価
<p>■学力向上実行プランに基づく学力向上に向けての取組 【アンケート：学力向上への取組(職②) 学習への意欲(保③)】</p> <p>■家庭学習習慣の確立 【アンケート：家庭学習(児⑦保④)】 【アンケート：学習習慣(児⑨保⑥)】</p> <p>■話すこと、聞くことの系統的指導 【アンケート：「話す」(児④⑮)】 【アンケート：「聞く」(児①保①職⑬)】</p> <p>■主体的・対話的で深い学びを生み出す授業 【アンケート：「調べる」「質問」(児③⑤)】 【アンケート：わかる授業(児②保②)】</p> <p>■GIGAスクール構想の推進</p> <p>■学校図書館の充実と読書活動の推進 【アンケート：読書習慣(児⑧保⑤)】</p>	<p>■全国学力・学習状況調査、県ステップアップテストの全職員による結果分析と授業改善 職員 100%(±0) 保護者 82.8%(+8.1)</p> <p>■基礎学力の土台となる取組 立腰タイム</p> <p>■ぐんぐんテストの実施</p> <p>■「家庭学習の手引き」の活用 児童 66.7%(-1.9) 保護者 57.6%(+8.1) 児童 73.9%(-8.3) 保護者 81.8%(+3.2)</p> <p>■「話し方名人」「聞き方名人」の奨励 児童 授業中 71.2%(±0) 朝の会等 53.2%(-7.9) 児68.5%(+3.2) 保80.8%(+3.1) 職83.3%(+21.8)</p> <p>■授業改善のための授業研修会への参加・実践 児童 調べる 64.9%(-3.8) 質問 78.4%(+6.3) 児童 85.6%(-3.4) 保護者 78.8%(-3.7)</p> <p>■高学年を中心としたタブレット端末の活用 次の日の学習予定や授業、家庭学習における利用やむを得ず登校できない児童への対応</p> <p>■鴨島図書館による配本(毎月)</p> <p>■読み聞かせボランティアによる読み聞かせ実施 児童 55.9%(+0.8) 保護者 34.3%(-3.5)</p>	B

### 成果と課題

学力向上を推進することで、学びに向かう雰囲気醸成され、児童の学習意欲への高まりを保護者から評価されている。家庭学習については、児童が下がっているのに対し、保護者が上がっているのが気になる。また、児童・保護者・教職員の「聞くこと」への意識や評価が上がっている。授業中は自分の考えを発表している児童が定着しつつあるので、問い返し学習を進め対話的な学びのおもしろさを実感させたり、主体的に取り組むために理由をつけて話す力や意見の相違を聞き取る力を高めたりするなど、深い学びのための授業・活動改善への工夫に取り組みたい。家庭学習や読書習慣においては、児童評価は若干増えたものの、保護者とも評価の割合が低く、家庭学習の啓発、興味関心の高い本の紹介、週末読書の実施等の具体策を講じていく必要がある。

## 「豊かな心」を育てる

<p>■生徒指導の充実 【アンケート：挨拶(児⑩保⑦職⑭)】 【アンケート：規則遵守(児⑭保⑨職⑰)】</p> <p>■人権教育の取組 【アンケート：善悪(児⑳職⑤)】 【アンケート：いじめ対応(職⑥)】</p> <p>【アンケート：友達関係(児⑱保①職⑮)】 【アンケート：他者への承認(児⑲)】 【アンケート：他者からの承認(児⑳)】</p> <p>■道徳教育の推進 【アンケート：協力(児⑫)】</p> <p>■特別支援教育の取組</p> <p>■体験活動や自主活動の充実  【アンケート：生命尊重(児⑳保⑫職③)】 【アンケート：自主性(児⑳職⑱)】</p>	<p>■児童会の主体的な取組への支援 児89.2%(+1.1) 保81.8%(+1.2) 職91.7%(+14.8) 児91.0%(+0.3) 保83.8%(+3.2) 職91.7%(+7.1)</p> <p>■いじめ防止の取組、スクールカウンセラーの活用 児童 85.6%(+0.8) 職員 100%(±0) 職員 100%(+7.7)</p> <p>■なかよし週間、親子輪読の実施</p> <p>■森山地区人推協との連携(人推大会等の開催) 児86.5%(-0.8) 保91.9%(-0.3) 職100%(+7.1) 児童 82.0%(-5.3) 児童 92.8%(+2.1)</p> <p>■年間計画に則った指導 児童 91.9%(+0.4)</p> <p>■関係機関との連携 巡回指導員の活用</p> <p>■「ポジティブな行動支援」の実施</p> <p>■レッツ森山班(異年齢集団)活動の実施</p> <p>■米作り(田植え、稲刈り)</p> <p>■栽培活動(生活科、理科、菊作り、栽培委員会) 児91.9%(-0.5) 保87.9%(+6.3) 職100%(+7.7) 児童 83.9%(-2.0) 職員 50.0%(-19.2)</p> <p>■金管バンドの活動</p>	B
---	---	---

### 成果と課題

挨拶や規則遵守などについては、児童・保護者・教職員の全てで評価が上がり、生徒指導や生活習慣の定着が図られている。家庭との連携による人権教育の取組を本年度も継続することができ、行事や取組後のアンケートなどからも高評価を得た。本年度も菊作り、生活科・理科などで栽培活動を行い、生命尊重の態度の育成を行った。また、県や市の事業を活用して講師招聘も行き、体験活動の取組の充実をめざして機会を増やしている。

「健やかな体」を育てる

<b>評価指標・取組指標</b> <small>アンケート丸数字は項目番号</small>	<b>達成状況・取組状況</b> <small>アンケート数値は「よくあてはまる」、「あてはまる」を合わせた割合( )は前年比</small>	<b>評価</b>
<p>■全国体力・運動能力・運動習慣調査</p> <p>■体力向上の取組 【アンケート:体力向上(職④⑩)】</p> <p>■家庭や地域、関係機関と連携した食育推進</p> <p>■早寝早起き朝ごはんを基本とする望ましい生活習慣の確立 【アンケート:けが、病気の予防(児⑬)】</p>	<p>■全国体力・運動能力・運動習慣調査 5年 徳島県 新体力テスト 5・6年 職員 取り組み 91.7%(-1.6) 意欲 83.3%(+6.4)</p> <p>■水泳、縄跳びにおける「がんばりカード」の活用</p> <p>■朝の持久走、持久走大会の実施</p> <p>■体操練習(22名参加)、水泳練習(28名参加) 陸上練習(32名参加)、クロカン練習(33名参加)</p> <p>■栄養教諭とのTTによる食育の授業(1,3,5年)</p> <p>■健康観察カードの活用 肥満傾向児童 4月 8.0%(-3.0) 1月 9.4%(-3.3) ■年2回の歯科検診実施 児童 83.8%(-5.2)</p>	<p>A</p>
<p><b>成果と課題</b></p> <p>児童が自分の体力やスキルを自覚し、目標をもって体力づくりや運動に取り組むために、水泳・縄跳びががんばりカードを6年間持ち上がっている。本年度は県・市の水泳、陸上及び市の体操の大会が開催され、練習参加児童は大会に向けて努力し、体力の向上を図るとともに多くの入賞者を出した。肥満傾向の児童割合は昨年度より減少しているが、学年色もあるので、引き続き養護教諭及び担任が家庭とより緊密な連携をとることで、肥満防止や、う歯の治療など健康教育の推進を図る必要があると考えている。</p>		

家庭・地域とともにある学校づくり

<b>評価指標・取組指標</b> <small>アンケート丸数字は項目番号</small>	<b>達成状況・取組状況</b> <small>アンケート数値は「よくあてはまる」、「あてはまる」を合わせた割合( )は前年比</small>	<b>評価</b>
<p>■学校ホームページの充実と適切な情報発信、一斉メールの活用による家庭との連携強化 【アンケート:学校目標の理解促進(保⑰職①)】【アンケート:情報発信(保⑳)】</p> <p>■適切な情報交換の方法や場の設定 【アンケート:保護者連携(保⑭⑱職⑦⑪)】</p> <p>■地域と連携した教育活動 伝統文化の継承  農業体験活動の充実 ボランティア体験 【アンケート:地域交流の促進(保⑨)】</p>	<p>■学校便り、学年便りの定期的な発行</p> <p>■一斉メールの活用</p> <p>■学校ホームページの情報更新 保護者 78.8%(+2.1) 職員 91.7%(-8.3) 保護者 90.9%(+4.5)</p> <p>保護者 協力 77.8%(+7.9) 評価 90.9%(+1.6) 職員 対応 100%(+7.7) 連携 91.7%(+7.1)</p> <p>■家庭訪問(4月)、個人懇談(7月) 学年懇談(4月, 2月)</p> <p>■参観日の実施(4月, 6月, 2月)(1減)</p> <p>■学校運営協議会(5月, 12月, 3月に開催)</p> <p>■生活科・総合的な学習の時間における活動 ・昔の遊び体験(1・2年) ・「獅子舞」「傘踊り」(4年),「二十四孝」(3年) ・米作り体験の実施(5年) ・アルミ缶回収活動(6年) 保護者 84.8%(-0.6)</p>	<p>A</p>
<p><b>成果と課題</b></p> <p>本年度は、マチコミメールの活用や学校通信や学年便りなど、各媒体の特性を生かしたきめ細かい情報発信を行った結果、情報発信を含むPTAとの連携については昨年度より評価を得ている。また、学校ホームページでも学校生活や行事の様子を随時発信している。地域や関係の方々の協力により、米・菊作り体験、地域の伝統文化の継承、昔遊び体験など地域の教育力を活用した特色ある取組をさらに推進することができた。今後も学校が主体となって、より質の高い学びのために、児童が主体的に取り組む工夫が必要である。</p>		

協働する学校づくり

評価指標・取組指標 <small>アンケート丸数字は項目番号</small>	達成状況・取組状況 <small>アンケート数値は「よくあてはまる」、「あてはまる」を合わせた割合( )は前年比</small>	評価
<p>【アンケート：運営の徹底（職①⑱㉑）】 【アンケート：研修の充実（職⑨）】 ■校務支援システムの活用による効率化の推進</p> <p>■外部人材（GT） 地域人材（SS）</p> <p>■働き方改革の促進</p> <p>家庭、地域への情報発信による理解促進 【アンケート：働き方改革推進（職⑳）】</p>	<p>運営91.7%(-8.3)方針91.7%(-0.6)報連相100%(±0) 職員 83.3%(+6.4)</p> <p>■校務支援システムによる勤務時間の把握 勤務時間外在校時間 月45時間超 平均1.8人(-0.3) ペーパーレス化の推進</p> <p>■学びサポーターの配置 中学年を中心に9月～2月 ■若手サポーターの配置（4・5月） ■ICT支援員による支援（毎週水曜日） ■専科指導員による授業（外国語） ■参観日・登校日の削減、時間外勤務の取り返し 夏季休業日前後の短縮日課、要録の記述変更 等 育成評価シートで自己評価</p> <p>◆学校便り・文書等で周知 職員 41.7%(-35.3)</p>	B
<b>成果と課題</b>		
<p>学校運営について、教員から評価は得ているが、徹底が十分でなかった状況がある。また、研修は外部講師招聘を積極的に行い昨年度よりも高い評価となった。校務支援システムを活用した学級事務や校務分掌の軽減、勤務時間外在校時間の把握を継続するとともに、県のサポーター事業や市のICT支援員等外部人材の活用も推進した。また、働き方改革のための行事の精選や登校日や参観日の削減、下校時間の短縮等を行った。しかし、教員の産育病休に伴う補充の確保が十分ではなく、教職員に負担をかけてしまった。</p>		

「チーム森山」として ～ 学校運営の充実 安心・安全な学校づくり ～

評価指標・取組指標 <small>アンケート丸数字は項目番号</small>	達成状況・取組状況 <small>アンケート数値は「よくあてはまる」、「あてはまる」を合わせた割合( )は前年比</small>	評価
<p>■安全点検の実施 【アンケート：環境整備（職員⑩）】</p> <p>■交通安全家族の会、スクールガードと連携した見守り体制の充実 【アンケート：学校安全（職員⑧）】</p> <p>■地域と連携した防災教育の充実</p>	<p>■毎月の確実な安全点検の実施 職員 58.3%(-3.2)</p> <p>■交通安全教室の実施 スクールガード巡視 ■交通指導（教職員 月あたり 8回） ■防犯教室の実施 職員 100%(+15.4)</p> <p>■定期的な避難訓練（不審者・地震・火災） 森山地区自主防災訓練、 AED体験学習（保・6年）親子防災体験学習（3年）</p>	B
<b>成果と課題</b>		
<p>安全点検については昨年に引き続き点検を丁寧に行い、異常があったときはできるだけ早急に対応した。遊びや学習中のけが発生の状況から、環境整備とともに安全指導の充実を図る必要が見られる。交通指導については、交通安全協会や家族の会の協力のもと交通安全教室を実施したり、スクールガードと連携した見守り体制も継続したりしている。また、今年度は5年ぶりに森山地区の自主防災訓練も行われ、地域の防災の拠点となる学校としても企画・運営に携わり、200名近く（児童も含む）の地域の方の参加があった。今後も地域と連携した防災教育の取り組みを図っていきたい。</p>		

<p>総合評価</p>	<p>(1) 児童アンケートの【学校が楽しい⑯⑰】と【先生の対応⑳㉔㉕㉖】への評価がどの項目も90%程度であることから、『希望の登校 満足の下校』をしている児童が多いことが分かる。</p> <p>(2) 学力向上では、学習規律も含む、基礎・基本の内容の定着が図られた。依然として、思考力・判断力・表現力等の育成には課題があるものの、授業改善やタブレットの活用、話し合い学習の充実を図り、思考力等の育成を図りたい。また、読書活動の充実に継続して取り組むとともに、家庭学習に課題があることから、家庭との連携を深め、学習習慣の定着について継続して協力を求める。</p> <p>(3) 生徒指導・いじめ対応については、丁寧で積極的な対応を心がけ評価を得ている。人権教育や道徳教育については、個々の活動の意義や内容を見直し、育てたい心情や態度を明確にして取り組む必要がある。</p> <p>(4) 家庭や地域との連携により成果を上げている取組を、今後も発展的に継続していくことが重要だと考える。今後も、地域の産業や伝統芸能文化の継承を図り、地域とともに歩む学校づくりに努めたい。</p> <p>(5) 働き方改革の目的は、教職員全体で取り組む具体策をとおして業務改善を図るとともに、それらを教育の質の向上につなげ、教職員が子供たちと向き合える時間をつくり出すことである。これからも、今の教育現場の最大の課題である教員不足の状況は続く。教職員一人一人が自らの働き方改革をどのように進めるかを意識させるとともに、行事等の精選を行い、保護者や地域の協力が少しでも得られるよう学校運営の現状を発信し続けていく必要がある。</p>
-------------	---